

414
A4517



考案

大日本國ト外國ト取結ヒタル條約中甲ノ開港
 場ヨリ乙ノ開港場ノ間ノ沿海貿易ヲ我政府ニ
 於テ日本船或ハ當政府ヨリ殊更ニ之ヲ免許シ
 タル外國船ノミニ限ルヲ得サラシムルモノアリヤ
 ノ問題ニ付余ノ郵見ヲ述ベキ旨命ヲ蒙リタリ
 余ハ否ノ字ヲ以テ之ニ答ヘニ決シテ日本國ノ
 條約申目ヨリ自赤ノ國權ニ屬スベキ右ノ推ヲ
 失スルカ如キハ條アル事ナシ尙左ニ論シテ此
 説ヲ弁明ス下シ

第一各國トモニ外國人ヲシテ我領内へ進入セ

大正十一年四月
侯爵郵寄贈



シムルノ經界ヲ定メ武ハ之ヲシテ我貿易ニ開
係セシムルノ制限ヲ立ルノ特權ヲ有スルハ是
レ萬國公法ノ基礎タル萬國一般ノ一致ト慣習
トニ依ツテ一定ナル最モ確乎タル所ノ論ナリ
故ニ外國人ヲシテ内地ヘ入ラシムル事條約上
準許スル所ニ非レハ外國人ヲシテ盡ク退去セ
シムルヲ得ヘキモノトス日本及ヒ支那ノ如キ
ハ即其例トスヘキモノナリ右ノ兩國ニ於テハ
外國人ノ進退ハ若干ノ開港場内ニ制限セラレモ
曾テ外國政府ニ於テ條約ニ依テ取極メル規程
地方ノ外ニ其國人民ノ為他港或ハ内地ヘ進入
スルノ許可ヲ推理上ノ事件トシテ請求スルガ
如キ無妄ノ所置アリシ事ナシ又朝鮮國ハ只日

本人ノ為ニハ貿易為ナル乎否ハ余之ヲ詳知セ
ザルモ一箇ノ地ヲ限リテ日本人ノ上陸及住居
ヲ許ルセリ然リト虽モ諸外國人民ヘ對シテハ
尚今日ニ至ルマテ國ヲ鎖テ其入ルヲ許サス故
ニ日本ノ外何レノ國ニ於テモ其人民ノ為開國
ヲ請求スル何タル推理ヲ有スル旨ヲ主張スル
モノナシ唯日本ハ征服ノ由縁ト條約ノ主意ヲ
以テ請求スルヲ得ヘキ丈ケノ事ヲ請求スルノ
ミ斯ク既ニ衆人盡ク朝鮮國鎖國ノ權理ヲ敬守
スル旨ヲ證シタレハ別ニ公法中ノ論ヲ引用スル
ハ無用ニ屬スト虽モ茲ニ英人ウイルトマニ氏
著述萬國公法書ヨリ左ノ一章ヲ抄録スヘシ
貿易上何等ノ物品ヲ輸入云何等ノ貿易ヲ行

フ事ヲ禁止シ或ハ之ヲ許可スルハ君主ノ隨
意ナリ此權ハ外國人ヲシテ沿海貿易魚獵及
ヒ屬地貿易ニ關係セシムルヲ許ルサバル諸
國ニ於テ專ラ行ハル、処ノモノナリ曾テ合衆
國ニ於テ諸外國トノ貿易ヲ禁止スルノ法ヲ
設ケシ時ニ當リ何レノ外國ニ於テモ其法ニ
付訴訟ヲ起セシ事ナシ加之其法ノ為最モ害
ヲ蒙リタル外國政府(英國)スラ猶其地方取締
規則タレハ毫モ外國ノ之ニ關係スヘキニ非
ストシ訴訟ヲ起スノ推理ナキ旨ヲ公言シタ
リ
第二夫條約ノ義ヲ解スルニハ明言アリテ然ルニ
非レハ毫モ一國ノ主權ヲ他ニ假ス事アリト見

做スヘカラサルハ了然タル公理ナリ譬ハ特
リ自國人民ノ用トシテ自國ノ漁獵場海濱海濱
ノ遠近ヲ占有スルハ一國ノ主權ナリ故ニ其
國ニ於テ海濱ノ全部或ハ其一部ニ於テノ漁
獵ノ權ヲ他國人へ讓與スルヲ得ヘキモノト
ス即チ華盛頓府英米條約廿八條七ノ例ニ
於ケル如シ此條約ヲ以テ兩國各其國海
濱某々ノ場所ニ於テハ相共ニ漁獵ノ權
ヲ允准ス然リト虽モ此權ヲ讓明許スルノ
故ヲ以テ沿海貿易ノ權ヲモ共ニ許可ス
ルニハ非ス故ニ今日ニ於テモ英國船(他國船)
リ)米國內甲港ヨリ乙港ノ間ニ貨物(他國ヨリ輸
入シテ未ダ陸揚セザル貨物ヲ除ク)ヲ運送スル事

アレハ船賃兩ナカラシテ官戸没ス如此シテ以テ英船其他外國船(米船ヲ除ク)ヲシテ「ケイプ、ホー、ル」ニシテ繞リメイン州ノポルト、ランドヨリ「レゴニ」州「ホルト、ランド」ノ間ノ沿海貿易ヲ禁ス其海路ハ少クモ「ラレゴニ」州ノ「ホルト、ランド」ヨリ横濱迄ノ距離ニ三倍シ途中米國ノ一港ヘモ立寄ラスモテ航海スルヲ得ル処ナリ由テ英國ニ於テハ情実ヲ述ベ如此キ航海ヲ沿海通路ト称スルハ辭義ニ過グルモノナリト訴フルモ尚米國ニ於テ禁ヲ設クルノ主權ヲ論スルヲナサバルナリ

日本ト外國トノ條約ノ全面ヲ見ルニ完ク外交ヲ絶シタル回時ノ状態ヲ認ルニ足ル然ル

モ條約ノ為ニ數ヶ所ノ地ヲ選ニ適宜ノ約定ヲ結ビ實際通商ヲ允准シタルヲ以テ稍々回時ノ状態ヲ改メタリ是ヲ以テ日本ニ於テ實際貿易上ノ事ニ付キ未タ條約國人民ヘ允准セサルモノハ悉ク日本ニ於テ適宜トスル所ノ規則ニ任スヘシイマタ允准セサルノ事件ニ於テハ條約國人民モ尚條約未締國人民ト異ナル所ナシ條約未締國人民ノ如キハ日本ニ於テ欲セザレハ全ク國內之ヲ入レサルモ可ナリトス

一千八百六十六年六月廿五日ノ改稅約定第五ケ條ヲ以テ或ハ日本物産沿海貿易ノ権理ヲ外國人ニ許與スルモノト見做スヲ得ベシトノ論アリ即チ其條ノ文ニ云「日本ノ産物ハ運送ノ陸

水路修役ノ為諸高賣ニ付テ取立ル通例ノ運
上ノ外ハ別ニ運送運上ヲ納ムル事ナク日本ノ
内何レノ地ヨリモ外国交易ノ為問キタル各港
ニ運送スル事勝手タルベシト余ヲ以テ之ヲ見
ルニ条中毫モ外国人或ハ外国船ノ事ニ關係ス
ル所アラザルカ如シ夫レ此条ノ意タルヤ當是
日本ノ船或ハ日本ノ車ヲ以テ日本ノ内何レノ
地ヨリモ外国交易ノ為問キタル各港ニ日本産
物ヲ運送スル事ヲ日本人へ許可スルハ則既
ニ其意ヲ尽シ充分此条ヲ施行シタルナリ凡テ
獨立国ノ推理減縮ニ関スルケ条ノ如キハ極テ
狭ク其意ヲ解スルヲ常トス之ヲ詳言スレハ其本
意ノ外ニ尚意味アルモノト想像ス可ラス一般

ニ推察ニ得ヘキ廣キ意ヲ含蓄スルモノト想像
ス可ラザルナリ彼ノ日本ノ内何レノ地ト記ス
ルハ何レノ開港地ト云フノ意ニシテ即チ甲ノ
開港場ヨリ乙ノ開港場へ日本物産ヲ運送スル
沿海廻漕ノ為ノケ条ト解スヘキナリ若シ之ヲ
一般ノ港ナリトセハ唯開港場ノミニ限ラザル
ベシ然レトモ外国人ハ不開港地へ到リ又不開港
地へ船ヲ入ルヲ得サルハ條約ノ定ル所タルハ
第五ケ条ニ関セス之レ外国人ノ有セザル推理
ナリ決シテ不開港地へ到リ又不開港地へ船ヲ
入ルノ推理ヲ外国人へ許與スル主意ノ条ニ非
サルナリ其条ノ内國運送ニ係ルモノタルハ論
ヲ俟スレテ自ラ了然ヌリ固ヨリ貨物ハ日本産

物ニ限ルモノトナス。否ニテ允テ海港ハ貨物ヲ
産出スルノ地ニ非ス。唯貨物ヲ賣買スルノミ
場所タリ日本ノ産物ニ何等ノ税或ハ運送税ヲ
課セサルナリ。税或ハ運送税ナルモノハ内地
於テ課スル所ノモノニシテ税関ニ於テ收入ス
ル輸出入税ト同敷一般ノ語ニ非ス。自余ノ条中
ニ於テモ何等ノ税又何等ノ運送税タルヤハ明
カニシテ陸路及水路修復ノ為賦課スル通常ノ
税ナリ。未タ曾テ海路修復ノ税アル事ヲ聞ス。然
レハ水路或ハ水路修復ト云フハ則チ破壊ニ及
ンテ之ヲ補理スルニ出費ヲ要スル水路ノ事ニ
非サルヲ得ス。是即堀河川又ハ内海ノ瀬戸等ニ
於テノ事ニシテ決シテ大海ニ於テアルヘキ事

ニ非ルナリ。
又一千八百六十六年七月十六日附シルバリーパー
クス氏ヨリカレンダル侯へ寄送セラレタル書
翰中ニ此第五ヶ条ニ付テ同氏ノ辨解セラル所
アリ。此書翰ハブリテン、ブリュックト題スル書
中一千八百六十七年日本ノ部第一号第八片葉
ニ刊出スルモノニシテ即チ第五ヶ条ハ開港場
へ出ス日本諸物産ヲ保護スルカ為ニ一般ニ内
國物産ニ賦課スル如キ陸路或ハ水路税ノ外別ニ
運送税其他ノ税ヲ賦課セサルナリト云ヘリ。ハ
クス氏ノ用ヒラレタル英語ノトルスナルモノ
ハ特ニ道路橋梁渡頭堀河等ノ為ニ納ムルモノ
ニシテ常ニ内國ノ運輸往來ニ賦課スル所ノ税

ラ云フナリパークス氏亦云フ英国ノ前條約ニテ
ハ外国輸入物品ハ凡テ日本内地へ無税ノ運輸
ヲ許シタリ願クハ輸出物品上ニモ此保護ヲ及
サニ事ヲ希望スト是即此ケ条ハ内地ノ税ヲ賦
課セズレテ日本産物ノ輸出ヲ保護スル為ノ主
意ナリト云フニ異ナルナリ沿海運輸ノ物品ニ
毫モ関スルモノニ非サルナリ
曾テ一千八百七十一年十二月廿九日刊行ヂヤ
パンガセツト新聞紙上ニ條約改訂ノ事ニ付キ
横濱高松取締會社ノ報告書ヲ登録セリ此報告
書ニ論スル所ノモノハ條約各國ノ商人ヲ以テ
成立スル各社員ノ同意ニタル税ニシテ即チ云
ハ我輩思フニ沿海貿易ハ我輩又ハ何レノ外国

人ニテモ自由ニ行ヒ得ヘキモノニ非サルヘシ
只新條約ニ因テノミ之ヲ得ヘキモノト信ゾル
ナリト今爰ニ此報告書ノ事ヲ論シ及フ所ノモ
ノハ敢テ條約論ニ付テ横濱商人等ノ説ヲ一般
ニ重スルニ足ルヘキモノト思惟スルカ故ニ非
ス此報告書ナルモノハ沿海貿易論ニ付テノ條
約凡テ既ニ成ルノ后ニ出テ且ツ其説タルヤ彼
等自己ノ為ニハ不利論ナレハナリ又此報告書
ハ初メ各国外公使ノ議ヲ經公使等ニ於テハ当政
府ノ特許ニ非ル外ハ條約改訂ニ非レハ外国ノ
ヲシテ沿海貿易ノ權ヲ得セシメ難キ旨ヲ同意
セシ事判然ト知ルタル前ニ出タルモノニハ非
ルヘク察シ得ラルレハナリ

千八百七十五年十一月五日

イ、バーミン、スミツ

川
夕
積
清